

第20回金融教育に関する実践報告コンクール

## 優秀賞

# 小学校段階における お金に関する概念をつくるカリキュラム

～3年リユースショップ・4年クラファン・  
6年ビジネスプランコンテストの実践を中心に～

福岡県・福岡教育大学附属福岡小学校 主幹教諭 井手 司

知るぽると  
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2023

## 1. 「お金」に関する概念（お金を使うとこのようなことができるのか！）をもつ大切さ

日々の生活に、「お金」は常に関わっている。そして、成長と共にその関わりは深くなる。しかし、生活上の経験から「お金」の概念（お金を使うとこのようなことができるのか！）をつくらうとすると、消費者としての一面的な概念形成にとどまり、実社会に多様にある概念（お金を使うとこのようなことができるのか！）を形成できない可能性がある。また、あまりにも当たり前に生活の中に「お金」があることで「お金」の存在が生活（社会）を成り立たせていることに気づけない可能性もある。学校教育の中で「お金」を扱うのは難しいが、「お金」≡経済がどのように生活（社会）を豊かにしているのか実感することは非常に重要である<sup>①</sup>と考える。また、小学校段階であるからこそ、利益を出すための経済活動だけでなく、人がお金を使って何をしようとしているのか、お金によって実現される人の思いや願いにも目を向けることで、お金の概念（お金を使うとこのようなことができるのか！）の基礎をつくることができるのではないかと考える。

## 2. 小学校段階における「お金」に関する概念の整理

子供達には「お金」は目的を果たすための「手段」であることを理解して欲しい。それは、いつのまにか「お金を稼ぐ」ことが目的のように語られ、お金を得るために何をするのかという考え方にしばられるように感じていたからである。その考え方も大切であるが、より多様な考えをもって社会の中で豊かに生きて欲しい。そのために、子供達がどのような概念を獲得できるようにすればよいか金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」【改訂版】を参考にしながら、内容を作成し、実践してきた（別紙表参照）。なお、紹介する実践は、文部科学省研究開発学校指定において、独自の教育課程開発を認められた中で行ったものであるが、生活科や総合的な学習の時間、社会科、家庭科などで実践することが可能であると判断したものを紹介する。

### （1）低学年

低学年においては、お金と物や時間の等価交換に気付くことが大切である。お金を払うと見合った物や体験を得ることができ、それが自分の生活を豊かにする。また、お金を得るためには、時間や技術が必要であることが分かり、自分の身の回りにあるものはそのような労働によって得られたものによって購入されていることに気付くことが大切である。

### （2）中学年

中学年においては、価格の妥当性を理解することが大切である。価格について考える時、原価のみ考えがちであるが、人件費、輸送費、光熱費などが含まれていることに気付くことで、妥当性を捉えたと考えた。「安ければよい」と考えがちな価格への考えから、目に見えない費用への気付きによって、自分の生活や社会を豊かにしている製品やサービスが提供され続けるために適切な価格設定が必要であると気付くように促したい（実践①）。また、お金は信用を基盤として集まり、ある一定のお金が集まることによって目的を果たすことができることに気付くことも大切である。これは投資の基本となる考え方である。投資とは、目的に対して共感し、その達成を支援するために行われるものである。利益を求めて行う投資もあるが、ここでは前述した投資の基本となる考え方を捉えることができるようにしたいと考えた（実践②）。

### （3）高学年

高学年においては、目に見えないものであっても価値があれば、売買されるということに気付くことが大切であると考えた。情報があふれる現代社会において、情報は目に見える物以上に価値が見いだされることも珍しくない。動画配信サイトやSNSを始め、情報の中で生活する子供達には、情報が取引の対象となることを理解することは価値があると考えた。また、お金が循環することで持続可能性が担保されるということに気付くことも大切であると考えた。持続可能な社会にするためには、その仕組みを維持するための資金が供給され続けなければならない。お金が循環するシステムをつくることによって、持続可能な社会をつくっていくことができると理解することが大切だと考えた（実践③）。

## 3. 実践報告① 3年生「知りたいな！値段のひみつ～リユースのよさってなんだろう～」

この学習は学校近くの商店街で撮った2枚の写真から始まった。1枚は昼頃撮られた唐揚げの写真、もう1枚は夕方撮られた同じ唐揚げの写真である。夕方には値下げシールが貼ってある。その写真から「どうして同じものなのに、値段がちがうのか」「安くしてお店の人は困らないのか」と疑問がでてきた。そこで単元「知りたいな！値段のひみつ」がスタートした。

子供達は、身の回りの物の値段を調べ、インタビューを開始した。身近な商店にインタビューして、どのように値段が

付けられているのか調べていった。インタビュー結果を交流すると、値段は原価だけでなく、お店であれば光熱費や賃料、人件費など様々なものが値段に含まれていることに気付くことができた。そこで、教師はリユースショップで購入したおもちゃを提示し、値段の予想を子供に問うた。すると値段について調べてきた子供達は、その値段について自信をもって予想した。しかし、教師が提示した値段の安さに驚き、リユースショップの値段の付け方に関心をもった。そこで、リユースショップの店長にゲストティーチャーとして来ていただき、リユースの仕組みや値段について話をしていただいた。そして、最後に店長さんから「みんなも使っていないものがあれば、お店で売ってみませんか」と提案していただいた。もちろん子供達は自分が使っていたもので使わなくなったものを1つリユースショップで売ることになった。

リユースショップから買い取り価格を聞く日。子供達はワクワクしていたが、その買い取り価格に驚いてしまう。予想よりはるかに安かったからだ。愛着をもち大切にしてきた物が10円で買い取られる。あまりのショックに泣き出す子供もいた。教師が「売らなくてもいいよ」と伝えると、悩み出し、店長に来てもらって相談することになった。店長と共に「リユースのよさは何か」を考えた。売る人、買う人、お店にとってどのような価値があるのか、3つの立場から考えた。売る人の立場については、実際に体験しているため多くの発言があった。お店の人や買った人の考えは、店長さんや社長さんから補っていただき話し合った。子供達は、リユースは「どの立場の人も笑顔になる」「物を大切にしている思いがつながる」「地球にも優しい」などと発言し、子供達はリユースの大切さを知ると共に、値段をつけて売り買いすることで物が循環し、思いもつながっていくことにも気付くことができた。

後日、子供達の商品はリユースショップの店頭と並んだ。購入した方にお願ひしたアンケートには、感謝の言葉と共に大切に使うことを約束する言葉がたくさんあった。それを読んだ子供達は自分達の行った活動の価値を感じると共に、自分達の学習をまとめることができた。

#### 4. 実践報告② 4年生「実現したいな！ぼく・わたしのアイデア～クラウドファンディングしてみよう～」

この学習は本校の研究発表会に県外から来た方から「福岡の観光地を知りたい」と連絡があったことを提示したことから始まった。それまでの学習で学校の周りを調査し、地域の自慢を見つけていた子供達は、このアンケートを見て自分達でマップを作って配ろうと考えた。ただ、参加者は例年1,000名を超える。配るのであれば、しっかりとしたものをつくりたいと考えた。教師は印刷会社に見積もりをとり、子供に提示する。印刷に必要な金額は4万5,000円であり、その金額の大きさに子供達は諦めそうになる。そこで教師は「クラウドファンディングという方法でお金を集めることができるよ」という情報を伝えた。すると、子供達はクラウドファンディングに関心を持ち、調べ始めた。しかし、インターネットなどを使って調べるが分からないため、運営会社の方にゲストティーチャーとして来ていただき、仕組みなどを聞くことにした。

聞いていくと小学生ではクラウドファンディングをすることはできないが、教師が代理する形で行うことはでき、印刷代だけでなく手数料やリターンと呼ばれる返礼品代を想定して、金額を設定する必要があることを知った。そこで単元「実現したいな！ぼく・わたしのアイデア～クラウドファンディングしてみよう～」がスタートした。

そこから子供達はマップの作成と平行してクラウドファンディングの準備を始めた。しかし、そこで問題になったのがリターンを何にするかである。リターンを決めないとクラウドファンディングを開始できない。なかなか決めることができないため、運営会社の方に相談することにした。

子供達が考えたリターンは、支援して下さった金額に合わせて、福岡のお菓子を返礼するということであった。また、金額が大きい方には実際に街を子供達が案内するという案もあった。ゲストティーチャーからは、「リターンとして提示した場合、それを必ず実行する必要がある」とアドバイスをいただいた。アドバイスを聞き、子供達は悩む。「福岡に住んでない人が支援をしたらどうするのか」「お菓子を送るのは郵送料もかかり集める金額が高くなり、集まりにくくなるのではないか」「そもそもお菓子が欲しいのか」など、様々な意見が出る。そこで教師が、他のクラウドファンディングで支援者がどのようなコメントをしているのかを提示した。応援メッセージや最後までやり遂げて欲しいなどの支援者のコメントを見た子供達は「応援が多い」「ありがとうというメッセージもあった」「リターンの中身のことは何も書いていない」など、プロジェクト自体の価値に支援者は注目していることに気付きだした。ゲストティーチャーからも「支援することを決めている人の多くは、プロジェクトの内容とプロジェクトをしている人自身を応援したいという気持ちが強い」と話があり、「わたし達と支援して下さる人との間にはお金のやり取りだけでなく、そこには応援の気持ちが込められていて、わたし達はプロジェクトをやりきるという責任がある」という事に気付くことができた。

クラウドファンディングの結果は、目標金額6万円に対し、支援者21人から9万円を集めることができ、自分達が作ったマップを4,000部作成し、配付することができた。

## 5. 実践報告③ 6年生「ソーシャルビジネスで世界を救おう！～目指せ！小学生起業家～」

この学習は6年生最後の学習として行った。本校の学校教育目標は「未来社会を創造する主体の育成」であり、子供達とも共有している。6年生として未来社会に向けて何か提案できないかと始まった。まず、未来社会はどのようになってほしいか話し合うと共に、現代社会が抱える課題について話し合った。するとSDGsを基に、解決すべき社会問題についての気付きがあった。そこでこれまでの学習から「社会を変えることができるのは政治だけか」と問うた。すると子供達は「企業力も大きい」と述べ、具体的な例を多く挙げた。その一方で「社会課題そのものを企業が解決できるのか」という問いも生まれた。そこでソーシャルビジネスを紹介し、そのような企業が新しく生まれていること（起業）を伝えた。子供達は、起業について知りたくなり、話を聞いてみたいとなった。そこで福岡市のスタートアップを支援する施設（スタートアップカフェ）に行ってみることにした。

スタートアップカフェでは、ビジネスに必要な考え方としてビジョン、ミッション、ターゲットについて話をしてもらった。また、大人でも子供でも関係なくビジネスアイデアは生まれるという話をしていただいた。それを聞いた子供達は、実際にビジネスプランを作ってみたくなり、単元「ソーシャルビジネスで世界を救おう！～目指せ！小学生起業家～」がスタートした。

子供達は自分達が関心のある社会課題について調べ、どのような社会にしたいのかビジョンをつくり、ビジネスプランを考えていった。だが、次第にこれではよいのか分からなくなり、アドバイスを求めるようになった。そこで教師はゲストティーチャーとして起業家やコンサル、ソーシャルビジネスを實際にしている方を呼び、アドバイスをしていただけるようにした。ゲストティーチャーには、子供扱いせず意見していただくようお願いすると共に、具体的な価格設定や利益などの細かい話ではなく、ビジョンとミッションの整合性やビジネスモデルとして成立するのかという視点でアドバイスをお願いした。子供達はその中で、最新技術について調べ、それを誰にどのように提供すれば資金が入り、社会課題を解決しながら、企業として活動し続けることができるか考えるようになった（具体的なプランについては資料参照）。

最後に子供達は3分間のピッチコンテストを行い、ゲストティーチャーから評価してもらった。初めは子供だからビジネスプランを作れないと考えていた子供もいたが、ゲストティーチャーの方の忖度の無い評価に自分達の可能性を感じ、学習を終えることができた。

## 6. 実践を通して大切にしてきたこと

どの実践においても子供達が本気になって学習できるようにしたいと考えた（真正の学び<sup>1)</sup>。「お金」を得るためには時間や技術が必要であり、そのようにして生み出されたものを扱う以上、机上の空論ではなく、真剣に話し合い、考えるようにしたかったからである。その状況を生み出すために、プロジェクト型学習<sup>2)</sup>を行った。プロジェクト型学習で大切なのは、子供が目的を達成するために、教師が捉えさせたい概念を使わざるを得ない状況をつくることである（内容を埋め込む）。また、子供達が自分達の学習をコントロールしながらできるように学習を仕組んだ（学習としての評価<sup>3)</sup>）。具体的には、課題を子供が設定し、その解決に向けて子供の求めに応じて資料やゲストティーチャーを手配するということである。もちろん教師はそのような求めが生まれることを想定しておくことで、子供の求めに応じ、導くことができる。そうすることで、より本気になる状況が生まれる。自分達が学習をコントロールしているという実感は学ぶ意義や意味を一層強めるからである。「何を知っているか」から「何ができるようになるか」へと学力観が変わる今、知識を多く獲得するよりも体験を通してその知識を活用し、概念を形成していくことが金融教育の目的にも合致すると考える。

注1) フレッド・M・ニューマン、渡部竜也・堀田論（訳）『真正の学び／学力 質の高い知をめぐる学校再建』p.35 春風社 2017年2月

「真正」という用語は一般的に、人工的な／フェイクの／誤誘導するような事柄とは真逆の、リアルな／正真正銘の／本当の何かということを目指しているとしている。

注2) L.トープ/S.セージ、伊藤通子・定村誠・吉田新一郎（訳）『PBL 学びの可能性をひらく授業づくり』p.18 北大路書房 2017年9月

PBLは、現実の問題に対する探究とその解決を中心に据えて集中して取り組む、体験的な（身も心も使った）学びと定義している。また、PBLは主体的な学習を促し、知識の構造化を支援し、授業と実生活を自然に統合する本物の体験を学習者に提供するとしている。教師の役割はコーチングする支援者であり、子供主体の学びが展開される。このような学びの形は金融教育の目指す学習像とも一致するものであると考える。

注3) 2017年10月 文部科学省 教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ（第1回）において石井委員は「学習の評価というのは評定、学習のための評価というのは従来の形成的評価、教師が指導の改善に生かす。だけど、学習としての評価というのは、子供たち自身が自分の学習の改善に生かすという発想です。つまり、自分の学習を自分でかき取りする力を育てていく。」と子供達が自分自身の学習の状態を評価し、学習をコントロールする力の育成の重要性について述べている。

資料1-7 学習の計画

第3学年1組 総合的な学習の時間 学びのPLAN

指導者 井手司

◇単元 知りたいな！値段のひみつ (a おかねときまり)

◇コンピテンシー (育てる資質・能力) ※本校独自の資質・能力を設定

<p>◎ 値段の付け方の仕組みを捉えたり、リユース活動を通して提供者にもなり得ることに気付いたりすることで、消費者の一人としての自覚をもとうとする。 (協働性)</p> <p>○ 身の回りにあふれている様々な商品の値段に関心を持ち、値段は誰が、どのようにして決めているのかについて話し合うことを通して、値段の付け方を知るとともに、お金と自分の関わりや物の価値について考え、自分の生活に生かそうとする。 (創造性)</p> <p>○ 消費者の一人として、売上の仕組みや物の価値とお金の関係に関心を持ち、消費行動をしようとする。 (向上性)</p>	<p>【図1 資質・能力の構造図】</p>
--	-----------------------

◇学習観

- 本学習では、どのように値段が決められているのか調べ、リユースショップに自身で設定した品物を出品することを通して、値段の付け方を知るとともに、物を大切に消費生活に自分の生活を変化させていこうとすることがねらいである。具体的には、①自分の身の回りのものの値段の付けられ方に関心を持ち、調べること、②リユースショップに自分の使っていた物を出品することを通して、リユースすることの価値についてとらえること、③これからの生活にどのように生かしていきたいか考えることなどである。このように、値段を付ける仕組みをとらえ、価値があると思うものに対してお金を支払う感覚や使い終わった物にもまだ価値は存在し、それを次の使用者へとつなぎたいという感覚を育てることは、これからの消費生活に関わる上で意義深い。
- 本学級の子供達は、2年生の学習で唐人町の仕事調べを行い、それぞれの仕事について体験することで、仕事をしている人達の思いや願いに触れている。しかし、仕事をする人々の姿が目前の商品やサービスの裏側にあることに気付いていない姿が見られる。それは、そのような思いでつくられた商品やサービスに値段という形で価値が示されていることに気付いていないからである。そこで、値段について調べることで、品物の値段は、作るために必要なお金(原価)や儲け(利益)、買う人がどれだけいるか(需要)、そして、作り手、買い手にとってどのような価値があるか(付加価値)が関係していることを見いだせるようにする。また、自分が使っていた物をリユースショップに出展することで、必要な人へと物が渡る価値を捉えることができるようにする。
- 本単元の指導にあたっては、自分の身の回りのものの値段の付けられ方に関心をもつことができるようにする。そのために、まず、導入段階では、唐人町商店街の商品の値段を提示する。その中で「身の回りにある値段はどのように決められているのか」という「中心の問い」を設定することができるようにする。次に、展開段階では、いろいろな品物の値段は、作るために必要なお金(原価)や儲け(利益)、どのような価値があるか(付加価値)が関係していることを捉えられるようにする。その中でリユースショップに出品することを通して、使い終わった物にもまだ価値は存在することに気付くことができるようにした。最後に、終末段階では、調べたことを自分の言葉でまとめ、それをもとにこれからの生活にどのように生かしていきたいか考えさせるようにする。

◇本時 平成30年10月31日(水)第○校時 子供スタジオにて

◇メインコンピテンシー (本時に発揮する資質・能力)

<p>☆協働性</p> <p>リユースによって大切な物を捨てることなく次につなげることができ、資源を大切に使うことにつながり、自分が消費するだけでなく商品の提供者にもなり得ることに気付く姿</p> <p>○ 物を買うばかりだと思っていたけれど、商品を提供することで社会の役にも立てそうだな</p>	<p>【図2 本時の協働性】</p>
--	--------------------

◇本時のプロセス（7／8時）

学習活動と内容	創造主体を生み出す手だて
<p><b>1 本時追究するリユースショップの価値はどのようなものか考える本時の問いとその予想を話し合う。</b>  <input type="checkbox"/> 本時の問いを解決しようとする意欲をもち、問いの解決のための予想を立てること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>本時の問い</b>                      リユースショップにはどのようなよさがあるのだろう。</p> </div> <p><b>2 リユースショップのよさについて話し合う。</b>                      (1) リユースショップのよさについて3つの立場から話し合う。  <input type="checkbox"/> 出品者は大切な物を捨てることなく次につなげられること、お店は利益を得ることができること、購入者は大切に使われた物を安い価格で手に入れることができることを気付くこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>社会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 必要でないものがゴミとならずに済む</li> <li><input type="checkbox"/> 大切に使うという意識が芽生えて、資源を大切に使う</li> </ul> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p><b>お店</b></p> <p>POST&amp;LSOD</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 大切な物を次につなげる</li> <li><input type="checkbox"/> 利益が出る</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>消費者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 安く手に入る</li> <li><input type="checkbox"/> 必要な物が手に入る</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>リユース</b></p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>提供者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 大切な物がつながる</li> <li><input type="checkbox"/> お金を得られる</li> </ul> </div> </div> </div> <p>(2) 自分はどの立場か考え、どのようなことができるか話し合う。  <input type="checkbox"/> 消費者として物を大切に使うことで、提供者にもなり得ることに気づき、社会へ貢献したいという思いを高めること</p> <p><b>3 リユースショップの価値や、自分と物との関わりについて、自分の考えの変化を学習プリントに記述する。</b>  <input type="checkbox"/> リユースは消費者、提供者、お店それぞれにとってよさがあるだけでなく、社会にとってもよいことであることを捉え、物を大切に使うことで自分も関われることに気付くこと</p>	<p>※問いを解決するための3つの立場に気付かせるための、商品を購入している様子や、購入者の感想の提示</p> <p>※3つの立場（消費者、商品の提供者、お店）から、リユースの価値に気付かせるための、リユースショップの店員のGTとしての活用</p> <p>※提供者になり得ることに気付かせ、社会に貢献したいという思いを高めさせるための、立場を決めて考えを記述できる学習ノートの提示</p> <p>※物の価値に対する自分の考えの変化を捉えさせるための、事前のプリントに書き込ませる学習プリントの提示</p>

資料2-8 学習の計画

第4学年1組 社会科（総合的な学習の時間）・言葉科 学びのPLAN

指導者 井手司

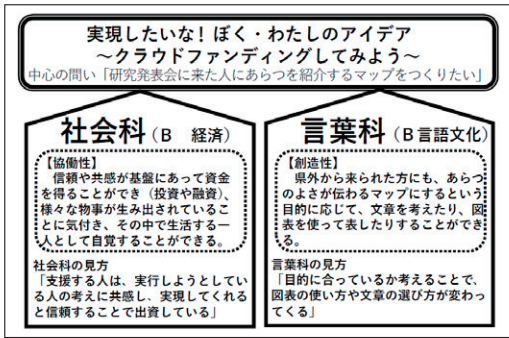
◇単元 実現したいな！ぼく・わたしのアイデア～クラウドファンディングしてみよう～

【社会（B経済：投資の仕組み）・言葉（B言語活動イ：書くこと）のリレーション】

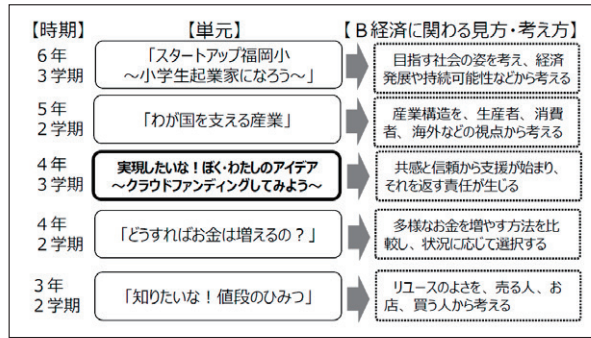
◇育てる資質・能力 ※本校独自の資質・能力を設定

<p><b>【社会科】（総合的な学習の時間）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 信頼や共感が基盤にあって資金を得ることができ（投資や融資）、様々な物事が生み出されていることに気づき、その中で生活する一人として自覚することができる。 (協働性)</li> <li>◎ クラウドファンディングで支援を得るために、多角的（自分達、支援者、世の中の人）に事業を考えることができる。 (創造性)</li> <li>◎ 経済の循環の中で生活していることを実感し、自身の消費生活について考えることができる。 (省察性)</li> </ul>	<p><b>【言葉科】 ※本校独自の教科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 県外から来られた方にも、福岡のよさが伝わるマップにすると目的に応じて、文章を考えたり、図表を使って表したりすることができる。 (創造性)</li> <li>◎ 友達と一緒に載せる内容を調べたり、集めた他の地域のマップを比べたりすることで、よりよくすることができる。 (協働性)</li> <li>◎ 最初に作ったマップと完成品を比べることで、目的に応じた表現にするための工夫の仕方について、捉えることができる。 (省察性)</li> </ul>
---	--

◇学習観



【図1 本題材のリレーションとしての概念図】



【図2 本リレーションにおけるカリキュラム構成】

○本リレーションでは、「研究発表会に来られた人達に、福岡のよさを伝えるマップをつくるためにどうすればよいか」という問いを基に、クラウドファンディングで支援してもらおう中で、①自分のしたいことへの信頼や共感によって資金を得て(投資や融資)、様々な物事が生み出されていることに気付くこと、②クラウドファンディングで支援を得るために、自分達、支援者、世の中の人から多角的に考え、事業を考えること、③経済が循環する中で生活していることを実感することをねらいとしている。また、言葉科においては、「県外から来られた方に、福岡のよさが伝わる」という目的に応じて図や表、グラフを使いながらマップをつくるようにする。

クラウドファンディングとは「インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み」のことであり、近年、資金力のない人でも、自身の活動に共感や信頼を得ることによって、その活動を実現する手段として使われている。このような仕組みを体験することによって、投資や融資の前提には信頼や共感があり、その資金を受けることによって実行する責任が発生することを実感させたい。そうすることで経済が循環する中で生活していることを自覚することができると思う。

◇本時 令和元年11月30日(土)第5校時 4年1組教室にて

◇本時の目標

☆協働性

自分達が支援を得るためにホームページに載せている情報が十分かどうか、グループ毎にG Tと共に話し合い、何が大切なのか支援者や世の中の人、自分達の立場から話し合う姿

○信頼や共感してもらえるから、支援をしてもらえるのだな。  
支援してもらえるのであれば、絶対に成功させたいな。

**クラウドファンディングの  
情報を更新する**

○ 支援したくなるような内容に情報を吟味する。  
○ 支援者の立場になりながら、改善点を考える。

**支援したくなる計画や  
情報の中身とは？**

【図4 本時の協働性】

◇本時の学習過程（7/14時）

学習活動と内容	手だて
<p>1 ホームページに載せる情報について、いくつかの立場から考えるという本時の問いについて話し合う。</p> <p>○ これまで調べてきたことを基に、ホームページの情報が十分なものになっているのか追究することに対して関心をもつこと</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>本時の問い</b> 支援したくなるリターンになっているのか話し合おう。</p> </div> <p>2 ホームページの情報について、内容が十分か話し合う。</p> <p>(1) リターンの内容について話し合う。</p> <p>○ 支援しようと考えている人達は、自分達の考えに共感してくれたり、お金の使い道に対して信頼したりしてくれていることに気付くこと</p> <p>(2) それぞれのグループ（①プロフィール、②メイン画像、③支援金の使い道、④リターン、⑤プロジェクト紹介）に分かれて、それぞれが載せようとしている情報について話し合う。</p> <p>○ 支援をしようと考えている人にどうすれば伝わるか、見いだした視点から、内容や伝え方を考えること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p><b>計画をしているわたし達の思いの実現</b></p> <p>【計画をしているわたし達】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①プロジェクト紹介（伝わるように）</li> <li>②レポート（経緯について）</li> <li>③支援金の使い道（明確に）</li> <li>④支援コース（リターンの多様化）</li> <li>⑤プロフィール（分かりやすく）</li> </ul> <p>クラウドファンディング</p> <p>支援 ←</p> <p>→ 責任</p> <p>【支援者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○共感（とてもよいな）</li> <li>○応援（やり遂げて欲しい）</li> <li>○信頼（正しいお金の使い方をしてくれるはずだ）</li> <li>○期待（どのようなのか楽しみだな）</li> </ul> </div> <p>3 今日の学習による変化を自己評価し、これからの学習について、「学びの足跡シート」に記述する。</p> <p>○ 社会の一員としての自覚、変化への手応え、対立の克服の視点から、自分の変化を捉えること</p>	<p>※ ホームページの情報に関心をもたせるための、現在の支援状況の提示</p> <p>※ どうすれば伝わるか考えさせるための、G T（クラウドファンディング代表）の招聘、他のプロジェクトへの支援者の応援コメントの提示</p> <p>※ 支援者の共感や信頼に応えることに気付くための、他のグループとの共通点を話し合う場の設定</p> <p>※ 3つの視点（お金を使う一人としての自覚、変化への手応え、対立の克服）から振り返るための、「学びの足跡シート」の提示</p>



資料3-6 学習の計画

第6学年1・3組 「人間科・社会科・科学科」テーマ 学びのPLAN

指導者 井手司

人間科単元「未来の自分に向かって」(D 他者と世界)

社会科単元「ソーシャルビジネスで世界を救おう!~目指せ!小学生起業家~」(B 経済)

科学科単元「思い通りに動かそう!~ドローンのプログラミング開発~」(C テクノロジー・エンジニアリングに学ぶ)

本テーマの価値について

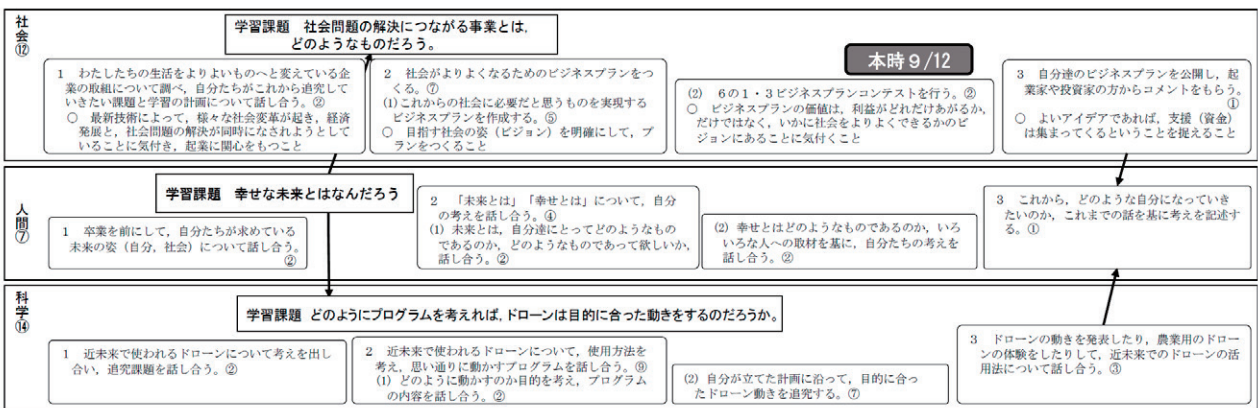
○本テーマでは、自分にとって価値あるものと考え、大切な生き方を構築しようとする資質・能力を養うことをねらいとしている。そのために本テーマでは、人間科を中心に、自分にできることは何かを追究していく過程で、社会科、科学科において、仕事の価値や、今後のスマート社会について考えるという子供の文脈で教科横断的に探究することができるようにする(下図)。具体的には、①自分の問いを基に、理想とする未来の自分探しをすること(人間科)、②小学生起業家になるための仕組みや理念を考え、実践プランを考えること(社会科)、③近未来事業について調べ、ドローンの価値や働き、プログラムを考えること(科学科)などである。このような各教科での学びを通して、自分なりの応えを見付けることができるようにしたい。このような点からも、本テーマは、理想とする自分の姿をつくる上でも価値があるものである。

社会科の目標(目指す資質・能力)

- これからの社会が抱える課題(福祉、医療、貧困、格差、環境、就労、難民・移民など)を解決する事業を考えることができる。(創造性)
- ビジネスプランコンテストで魅力的なプランを選ぶ中で、社会をつくる一員としての自覚をもち、自分達のアイデアによって社会が変化する可能性を感じることができる。(協働性)
- 社会をつくる一員として、常に社会に目を向けて、自分にできることを考え、小さなことであっても行動しようとするすることができる。(省察性)

社会科の学習観

- 本単元では、常に理想の社会を思い描きながら、社会に働きかけ、その実現に向けて行動できるようにすることがねらいである【学校を超える価値】。具体的には、①日本や世界が抱える課題を解決するビジネスプランを考えること、②自分達のアイデアが社会を変える可能性がある実感し、未来社会をつくる一員であることを自覚すること、③よりよい社会にするために、自分にできることを実行しようとしていくことなどである。このように、自分達のビジネスプランをつくり、その実現に向けて取り組むことは、よりよい社会を形成する一員として自覚し、社会に働きかけようとする子供を育成する上で価値がある。
- 本学級の子供達は、2学期の「未来へつながらるまちづくり」や「国の予算の使い道」の学習において、有権者という立場から、よりよい社会をつくる一員としての自覚をもつことができた。しかし、「企業の役割とは何ですか」の問いに対して、18%の子供は「よりよい社会をつくる」ことに触れているが、残りの子供は「企業は利益の追及のみを考えてる」と捉えている。そこで、経済発展と社会問題の解決を対立的に捉えている子供達に、ソーシャルビジネス(ビジネスで社会課題を解決する)に出合わせることで、経済発展と社会問題の解決は両立する(SDGsの考え方)という見方・考え方を育みたい。このような社会的な見方・考え方は、これからの未来社会において中心となる見方・考え方であり、よりよい未来社会をつくる一員として自覚する上で大変意義深い。



【図テーマ「未来の自分に向かって」の過程】

本時の見方・考え方と中心となる概念

<p><b>【社会的な見方・考え方】</b> 人の営みを多角的・多面的に考察し、持続可能な社会を目指し、バックキャスティングの枠組みで考えること</p> <p><b>【内容B-イ】</b> ・まだ実現していないアイデアであっても、目指す社会の姿(ビジョン)に共感されれば、価値が見出され、実現に向けた投資(支援)がされること</p>	<p>【本時の協働性】</p>
--	-----------------

本時の学習過程 (9/12時)

学習活動・内容・予想される子供の反応	手だて
<p><b>1 本時追究する自分のビジネスプランの提案と、その改善についての本時の問いについて話し合う。</b></p> <p>○自分のビジネスプランを見直そうとする意欲をもつこと</p> <p>・今日まで自分のアイデアを実現するために調べたり、九大の起業部の人からアドバイスをもらったりしてきたけれど、見直すならどこだろう。</p> <p><b>めあて</b> 6の1・3ビジネスプランコンテストを行って、自分の改善点に気づき、よりよいプランに作り直そう。</p>	<p>※プランを見直そうとする意欲をもたせるために、展示してもらう会場の様子が分かる資料を提示する。</p>
<p><b>2 6の1・3ビジネスプランコンテストを行う。</b></p> <p>(1) 1チーム3分で自分のビジネスプランを提案する。</p> <p>○自分達の事業プランの不十分な部分を明確にすること</p> <p>・ビジョンはとても共感できると言ってもらえたが、福岡だからこそできるプランになっていないと分かったから、そこを修正する必要があるな。</p> <p>(2) 各チームのメンターとともに、自分達のプランの改善の方向性を話し合ったり、改善を行ったりする。</p> <p>○審査員の評価から、改善すべきことやその方向性を捉えること</p> <p>・ビジョンへの評価は高かったが、ターゲットが限定的すぎたな。もっと多くの人に使ってもらえるサービスになるように改善しよう。</p>	<p>※自分達のプランの不十分な部分が明確になるようにするために、起業家の方や起業をサポートする方が審査員をする6の1・3ビジネスコンテストを開催する。</p> <p>※自分のプランの改善すべき点を捉えさせるために、相談できる相手として九大起業部の大学生を各チーム1名ずつ招聘する。</p>
	<p><b>【評価内容】</b></p> <p>□審査員やメンターの助言を受けて自分達のプランの改善の方向性をビジョン、ターゲット、ミッションから話し合う姿</p> <p><b>【評価方法】</b></p> <p>◇話し合うときの発言の様子や、付箋紙に書かれた改善内容の記述から</p>
<p><b>3 今日学習による変化を自己評価し、これからの学習やプラン変更の見通しについて「学びの足跡シート」に記述する。</b></p> <p>○社会の一員としての自覚や変化への手応えの視点から、自分の学習を振り返り、次の学習の見通しをもつこと</p> <p>・次までに調べてくることははっきりしたぞ。次が楽しみだ。</p>	<p>※自身で自分の学びの変容を評価させるために、振り返りの軸を明記した「学びの足跡シート」を提示する。</p>
<p><b>学びのゴール【概念】</b></p> <p>☆一人で暮らしているお年寄りに手軽に買い物をして欲しいというビジョンはよかったが、ターゲットをお年寄りだけでなく、心配する家族にも広げるとよさそうだ。そうすれば投資(支援)もしてもらえそうだ。</p>	

【表 子供達に獲得を促したい「お金」に関する概念と単元】

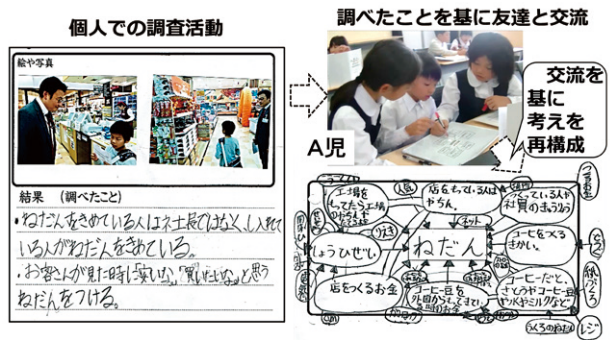
	概念	単元名
低学年	<p><b>&lt;お金によって得られるもの・こと&gt;</b> お金を払うと見合ったものや経験が得られること（お金とものや時間の等価交換）に気付く。</p>	2年生「いこう！ふぞく小りよこう」（生活科）
	<p><b>&lt;お金を得るために必要なもの・こと&gt;</b> お金を手に入れるには、時間や技術を必要とすること（労働とお金の等価交換）に気付く。</p>	2年生「おしごとちょうさい」（生活科）
中学年	<p><b>&lt;価格に含まれるもの・こと&gt;</b> 価格の設定には、原価だけではなく人件費や輸送費など目に見えないお金が含まれているとともに、価格の妥当性は利益を出す必要があることを理解する。</p>	3年生「知りたいな！値段のひみつ～リユースのよさってなんだろう～」(総合的な学習の時間)
	<p><b>&lt;信用を基盤としてお金は集まり、目的の達成につながる&gt;</b> お金は目的を達成するために活用され、その目的に共感し、信用を基盤としていることを理解する。</p>	4年生「実現したいな！ぼく・わたしのアイデア～クラウドファンディングしてみよう～」(総合的な学習の時間)
高学年	<p><b>&lt;目に見えないものであっても価値が生まれること&gt;</b> 情報（コンテンツ）には価値があり、情報は目に見えないが、目に見えないものでも価値があれば、商品として売買されることを理解する。</p>	5年生「トップ オブ メディアはどれだ？」(社会科)
	<p><b>&lt;お金が循環することで持続可能性が担保されること&gt;</b> アイデアに価値が見出され資金が集まることで社会の変革が起きると共に、持続可能な社会にするためには資金が集まり続ける構造をつくる必要があることを理解する。</p>	6年生「ソーシャルビジネスで世界を救おう！～目指せ！小学生起業家～」(総合的な学習の時間)

資料1 3年生「知りたいな！値段のひみつ～リユースのよさってなんだろう～」

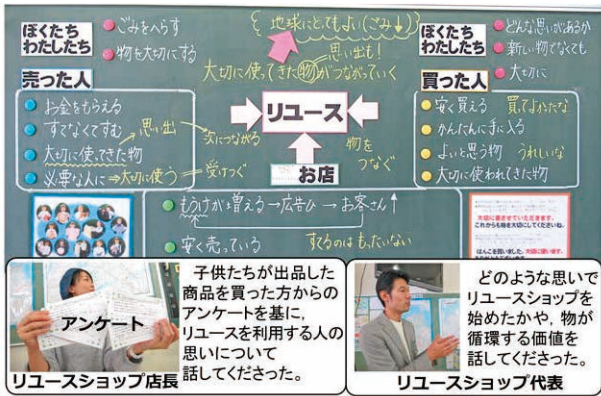
資料1-1 導入の様子



資料1-2 値段についての調査



資料1-3 リユースのよさは何か(板書)

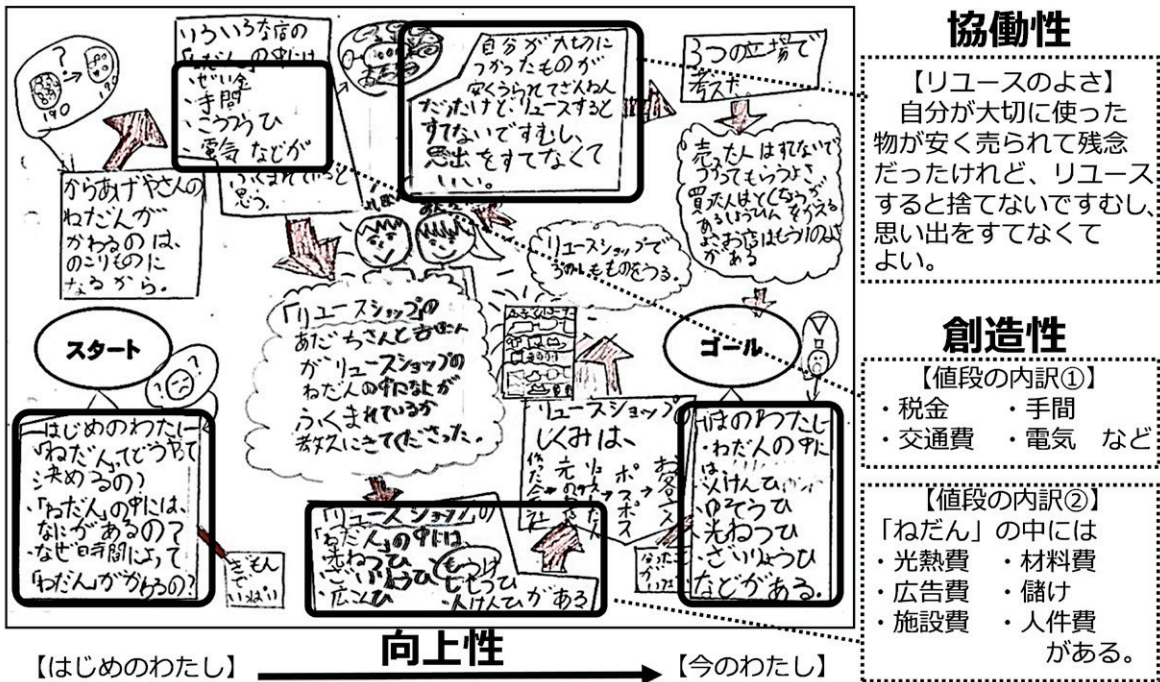


資料1-4 店頭に並ぶ子供達の商品



資料1-5 学習の終わりのまとめ

A児の学びの地図 スタートとゴールのみ示したプリントに、「学びの地図」をこれまでの学習プリントつづりを参考にしながら書き込んでいった。



資料1-6 協力いただいたリユースショップのHPでも学習の様子は紹介された  
URL : <https://post-post.jp/392/>



資料3 6年「ソーシャルビジネスで世界を救おう！～目指せ！小学生起業家～」

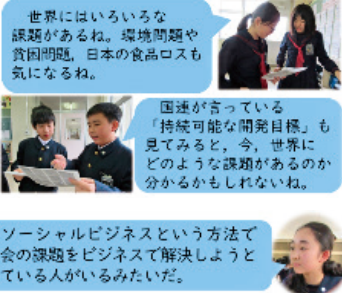
資料3-1 導入の様子

**未来を変えることができるのは政治の力だけなのか。**

世界にはいろいろな課題があるね。環境問題や貧困問題、日本の食品ロスも気になるね。

国連が言っている「持続可能な開発目標」も見てみると、今、世界にどのような課題があるのか分かるかもしれないね。

ソーシャルビジネスという方法で社会の課題をビジネスで解決しようとしている人がいるみたいだ。



資料3-2 スタートアップカフェ

【字の地図づくり】→子供が求める状態に！！

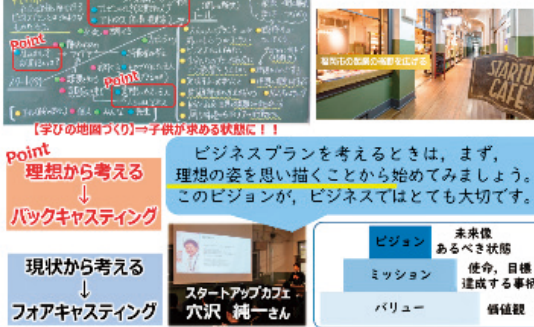
point  
理想から考える  
↓  
バックキャスト

point  
現状から考える  
↓  
フォアキャスト

ビジネスプランを考えるときは、まず、理想の姿を思い描くことから始めてみましょう。このビジョンが、ビジネスではとても大切です。

ビジョン	未来像 あるべき状態
ミッション	使命、目標 達成する事柄
バリュー	価値観

スタートアップカフェ  
穴沢 純一さん



資料3-3 協力いただいたゲストティーチャーの皆さん

誰のどのような課題を解決したいのか具体的にしていくとよいですよ。

ソーシャルビジネス ホーダレスジャパン  
POST&POST 辻田 寛明さん

多くの人が共感できるようなプランがよいですね。

クラウドファンディング  
FAAVO博多 代表 武 耕太郎さん

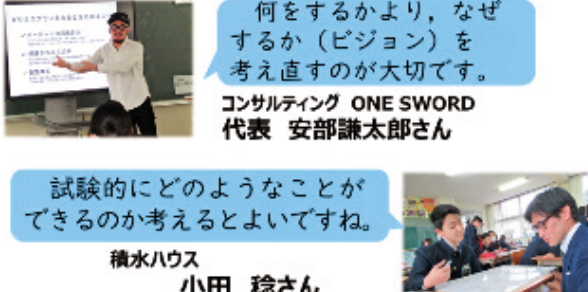


何をするかより、なぜするか（ビジョン）を考え直すのが大切です。

コンサルティング ONE SWORD  
代表 安部謙太郎さん

試験的にどのようなことができるのか考えるとよいですね。

積水ハウス  
小田 稔さん



資料3-4 子供達が考えたビジネスプラン

**目的**  
多くの人が食がけにちす

**ビジョン**  
食品ロスをなくすために廃棄されるものを回収し肥料にして農家に販売し農家でできたものを回収しまわるお店に販売する


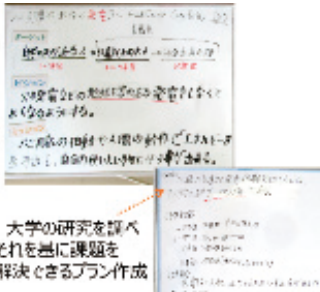
**収益**  
廃棄料金  
肥料の販売  
手数料

**目的**  
化石燃料に頼らない発電

**ビジョン**  
心臓の拍動や人間の動作をエネルギーに変換し身の周りの物を充電する装置の開発

**収益**  
商品の販売

大学の研究を調べそれを基に課題を解決できるプラン作成

**目的**  
世界の人たちがゴミへの意識が高まる

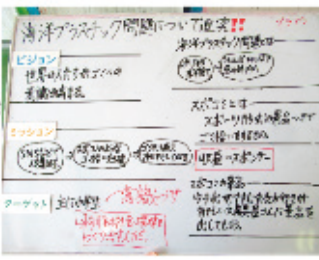

**ビジョン**  
スポーツ形式の景品付きゴミ拾い大会を小学生対象に開催する  
未来をつくる人たち

**収益**  
文房具屋さんや塾、教育関係の広告

**目的**  
地球に優しい社会

**ビジョン**  
捨てる物を倉庫に集め必要な人がアプリを使って物を借りたり、売ったりシェアできるアプリを開発

**収益**  
レンタル代  
アプリの広告料  
お返し商品の紹介

資料3-5 ビジネスプランコンテストの様子

